

薬剤師による診察前面談の有用性評価

1. 研究の対象

本研究の対象は、以下のいずれかに該当する方です。

- ① 当院外来において、点滴抗がん薬を含むがん薬物療法を実施し、令和 6 年 10 月以降に薬剤師による診察前面談を受けた 18 歳以上の成人患者
- ② 外来でがん薬物療法を実施しており、診察前面談を実施する診療科に所属する医師

2. 研究目的・方法

研究目的： 令和 6 年度診療報酬改定において「がん薬物療法体制充実加算」が新設され、当院では令和 6 年 10 月より薬剤師による医師診察前面談を開始しました。

本研究では、この診察前面談の有用性を明らかにすることを目的として、以下の 2 つの方法で調査を行います。

1. カルテ診療録を用いた実態調査（後ろ向き研究）
2. アンケート調査（患者：紙媒体、医師：Google フォーム）

研究実施期間：研究許可日～令和 8 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる情報の種類

1. カルテ診療録を用いた後ろ向き研究

令和 6 年 10 月～令和 7 年 10 月の間に診察前面談を実施した患者の診療録から、以下の項目を収集します。

性別、年齢、診療科、がん種、治療レジメン、通算面談回数、面談所要時間、医師への提案数・提案内容（抗がん剤・支持療法薬等）、提案の採択割合、副作用グレードの改善有無、薬剤的介入による医療経済効果の推算。

2. アンケート調査（患者・医師）

診察前面談に関する有用性、理解度、副作用対策、診療負担軽減等を評価する内容（7～10 項目、選択式）です。

患者アンケートでは、治療内容把握のため、配布時にがん種・レジメン・面談回数のみ記載します。

回答時間は 5 分程度を見込んでいます。

4. 情報の授受

本研究は、単機関研究であり他の機関への情報の提供は行いませんが、本研究で用いた情報を当院で実施する将来の医学的研究のために、研究終了後も大切に保管させていただきます。新たな研究に用いる際には、国内外の規制に則り、あらためて研究計画書を作成して研究倫理審査委員会の承認や研究機関の長の許可を受ける等、適正な手続を踏んだ上で行います。

なお、新たな研究の概要・研究機関については、新たな研究に関わる機関（情報の授受を行う機関すべて）公式ホームページ等にて情報公開いたします。

・国立がん研究センターが参加する研究に関する公開情報

https://www.ncc.go.jp/jp/about/research_promotion/study/zisshi.html

5. 研究組織・研究責任者

国立がん研究センター中央病院 薬剤部長 橋本 浩伸

6. お問い合わせ等

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

情報が研究に用いられることについて研究対象者の方もしくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。

なお、この研究が適切に行われているかどうかを確認するためや研究の科学的意義を検討するために、国内外の第三者の立場の者が研究対象者の方のカルテやその他の診療記録、研究データなどを拝見することがあります。このような場合でも、これらの関係者には守秘義務があり、個人情報を守られます。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所 東京都中央区築地 5-1-1

電話 03-3542-2511（内線 2697）

担当者の所属・氏名

国立がん研究センター中央病院 薬剤部 がん専門修練薬剤師 川原出 真唯

研究機関の長

国立がん研究センター 理事長 間野 博行

当センターの研究責任者：

国立がん研究センター中央病院 薬剤部長 橋本 浩伸

研究事務局：

国立がん研究センター中央病院 薬剤部 がん専門修練薬剤師 川原出 真唯